7月14日（水）女性教養講座～第2回講座～　２５名参加
◆日高見窯陶芸教室◆

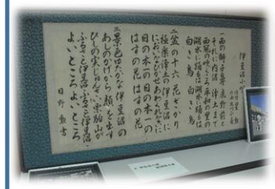
男性講座で大好評だった陶芸教室を今年は、女性教養講座でも行いました。この時も大好評で「またやりたい」と言う話もあがりました。
完成した作品が公民館に到着しました！どの作品も素敵に出来上がっていました。

地域投稿
第76回国民体育大会（三重とこわか国体）

第76回国民体育大会（三重とこわか国体）は9月25日から開催予定でしたが、新型コロナウイルスへの感染拡大により中止となりました。
宮城県のグラウンド・ゴルフ部門代表に決まっていた伊藤新さん、三塚幸男さん、伊澤さく子さん、石川巳代子さんの４名の活躍が期待されていただけに非常に残念です。

※県代表選手の４名※	
伊藤　新さん（立戸行政区）	三塚　幸男さん（新田駅前行政区）
伊澤　さく子さん（大浦行政区）	石川　巳代子さん（新田駅前行政区）

地域投稿
築127年「新田駅舎の思い出」展示会


伊豆沼小唄歌詞額

昭和47年以前の駅名表示板

駅名表示板

JR東日本から譲渡された新田駅舎解体に伴う撤去品が、登米市伊豆沼内沼サンクチュアリセンターに展示されていました。
（期間は令和3年8月12日（木）～31日（火））
東北本線最古の駅舎だったにった駅は西洋建築を模した建物で、展示されている柱はくぎを使わない明治ゴシック様式が取り入れられているそうです。

新田の伝説「芳子の墓」

昔、長沼の水を使って水田を開拓しようと2人の役人に測量調査のようなことを実施させることにした。それで今の小友地区のある家に宿を借り、水田の開拓、長沼の用水堤防の工事に着手したのである。
　その頃、宿に芳子というとても美しい娘がいた。娘は非常に親孝行であり、兄弟仲良く働き者で部落の若者たちの憧れの的でもあった。
　はからずもその家に宿を借りた2人の役人達も、娘の美しさに惹かれお互いに恋をし、仲間同志でありながら娘のことについて争うようになった。娘はそのことを知って非常に責任を感じるようになった。役人2人が自分に恋こがれていることを知り、人知れず心を痛め、私さえいなかったらと思うようになった。
　その頃長沼の堤防の中でも難所と言われた一の曲りは、大雨のたびに決潰して困り果てていた時である。そんな時、人柱を立てれば堤防は永久に決潰しなくなるという話しが娘の耳に入った。
　それから娘は、世の為・人の為になるものならと思い、儚い自分の運命を悔やむことなく、沼に身を投じて人柱となり、堤防のいしづえとなったのでした。その時芳子は16才だったそうです。
それからは役人の仲間割れも収まり、一の曲りの難所も立派に完成したが、芳子が沼に身を投じてから7日7夜、すすり泣く声が聞こえたと言うことです。
あまりにも不憫に思った地域の人達が、芳子の霊を慰め弔うため建てたのが今に残る芳子の墓である。

＊芳子の墓は新田中学校校庭にある友情の丘の後ろにひっそり建っています。参考資料：迫町史

新田の方言　か行　こ／編②

・ごくと　早く。急いで
・ここしの　眉毛
・ここげる　作る
・ごでぇぶしつよい　五体健全で力強い
・ここざす　こじらせる
・ここどまり　かたまり
・ここごなりり　伝言
・ここやまる　腰を折る
・ここぎする　長い衣服を着丈にあわせる

さ行　さ／編①

・ざぇごたろ　田舎者
・ざがんぶ　さけぶ
・ざぎおどでな　三日前
・ざぎまりい　そのうち
・ざぐずい　あっさりした気性
・ざぐさび　こめぬかから口をはさむ
・ざすしぐ　横あいから口をはさむ
・ざすぐい　密告する
・ざすしきっ　ちょっと前
・ざすだしゃたてた　とげが手や足に刺さる
・ざすとしゃたてた　少し
・ざっぱど　全部
・ざっぱなっぱ　一向に。ぜんぜん
・ざっぱぺぇする　指図する
・ざっぱりぇする　休養の日
・ざんかばれ　良くない有りさま
・ざんばご　裁縫箱
・ざんやめだ　腹が立った時作業を止める
・ざんまかぇ　気に食わない時何もしない
・ざんもねぇ　しっぺ返しをされる
・ざんりくう　おかっぱ頭
・ざぶけ　鳥肌が立つ
・ざぶたり　皿、鉢
・ざぶんぎ　精進料理
・ざぶんこ　野菜畑
・ざぶんやづる　突然転んでしまう

冊子「新田の方言」より
方言収集者　守屋八郎さん

皆の川柳

コロナ禍で
希望の光
みどり児の声
まっつさん

秋が来た
海にも山にも
田んぼにも
まっつさん

夜長月
負けじと
声張るコーラス隊
まっつさん

秋刀魚さん
漁も財布も
痛手です
匿名さん

ダイエット
明日からだと
食の秋
匿名さん

皆さんの投稿お待ちしております。